

感覚研究コンソーシアム・第2回嗅覚ワーキンググループ

時下、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。感覚研究コンソーシアムではこの度、第二回目の嗅覚ワーキンググループを開催する運びとなりました。今回も第一回目と同様テーマは設けず、近年嗅覚関連で大変興味深い研究成果をご発表なさっている先生方にご登壇をお願い致しました。まずは、東京大学の恒次先生には木材の香りがもたらす人への心理効果のお話を、ニューヨーク市立大学の大村先生には嗅繊毛を利用したヒト嗅覚受容体バイオセンサーの開発に関する研究成果をご発表頂きます。一連のご発表を通じて、皆様の嗅覚に関する理解を助け、嗅覚が持つ幅広い可能性を感じて頂ければ幸いに存じます。コロナ禍が落ち着いてきてはおりますが、様々な利便性を考慮してオンラインでの開催となりました。本ワーキンググループの目的は、アカデミアの嗅覚研究シーズの社会実装へ向けた企業会員の皆様との交流の活性化にあります。せっかくの機会ですので、是非とも、気軽な質問や会話などから交流を深めていただき、自由で有意義な意見交換の場として活用いただけると嬉しく思います。何卒、よろしくお願いいたします。

感覚研究コンソーシアム
嗅覚ワーキンググループ事務局
竹内 春樹（東京大学）

今回は Zoom (<https://zoom.us/>) での開催となります。後日詳細をご連絡させていただきますが、参加する際にはご所属とお名前をご明記していただき、ディスカッションの際にはビデオをオンにしていただく予定です。また、ご参加いただきました企業様、アカデミア会員様には後日アンケートを送らせていただきます。お忙しいところ恐縮ですが、何卒よろしくお願いいたします。

開催予定

6月12日（月曜日） 於 Zoom

10:00 – 10:05

「開会のあいさつ」

東京大学大学院理学系研究科
竹内 春樹

10:05 – 10:40

「樹木由来のにおいが人間の生理・心理面におよぼす影響」

東京大学大学院 農学生命科学研究科・教授
恒次 祐子 先生

森林浴で感じる「緑の香り」、ヒノキ風呂や木をふんだんに使った建物で感じる「木の香り」など、樹木由来のにおいは意外にわたしたちの生活に身近なものである。本発表ではこのような樹木由来のにおいが人に与える影響に関する様々な研究データをご紹介します。

10:40 – 11:15

「ヒトの嗅覚入力コード解明を目指したアッセイ基盤の構築」

Hunter College, City University of New York・Senior Research Director
大村 真代 先生

近年、私たちがヒトの嗅覚入力コードの解読を目指して取り組んでいる嗅覚受容体を高頻度かつ選択的に発現させるトランスジェニックシステムと、嗅繊毛を用いた匂い応答検出アッセイを組み合わせた解析基盤の構築についてお話しさせていただきます。

11:15 – 12:15

相談会：講演者ごとに個別ルームで相談会。参加者はどの小グループへも自由にご参加・移動できます（企業会員限定）。